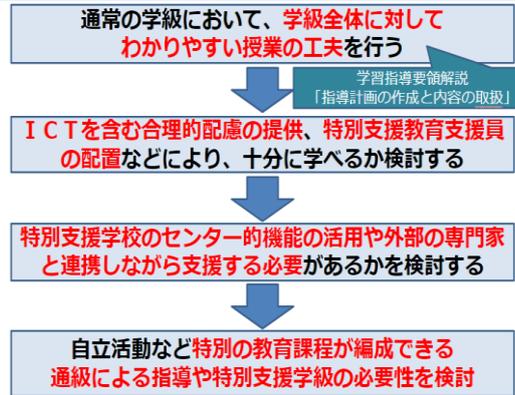


特別支援教育に係る集合指導訪問（担当者部会）

特別支援教育に関する専門性の向上を図ることを目的として、幼稚園及び幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の教員及び管理職を対象に実践発表や研究協議等職務に応じた研修を行いました。今年度の重点事項は、児童生徒一人一人の障害の状態等に応じた指導内容・指導方法の工夫・改善及び各学校等における校内支援体制の充実に資することでした。

担当者部会では、自立活動の授業を参観し、実践発表や各学校等における適切な学びの場の検討に関する研究協議を行いました。自立活動の授業づくりでは、校内の特別支援教育部全員で関わり、児童生徒の実態に配慮した指導計画が立てられました。また、研究協議では、高等学校や特別支援学校の先生方も交えて様々な立場からの意見交換が行われました。適切な学びの場の検討についても、一度実施して終わりではなく、毎年度、全ての障害のある児童生徒に対して、このプロセスを適用し、実施していくことが大切であることを確認しました。

適切な学びの場を検討するための段階的なプロセス



「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援に係る方策について（通知）」（4文科初第2411号令和5年3月13日）

＜集合指導訪問の会場校＞

参加した市町村	会場校（提案授業校）
水戸市、ひたちなか市	水戸市立寿小学校、水戸市立双葉台中学校 ひたちなか市立堀口小学校、ひたちなか市立佐野中学校
笠間市、小美玉市	笠間市立岩間第二小学校
茨城町、大洗町、城里町	城里町立石塚小学校
東海村、那珂市	東海村立中丸小学校
常陸大宮市、大子町	常陸大宮市立村田小学校

自立活動の授業の様子



先生方との指導案づくりに参加した際、「どんなお子さんですか」の質問に対し、たくさんのお話を聞くことができました。また、担任だけでなく特別支援教育部及び管理職のみなさんがその子の困り感だけでなく、得意なところ、家庭状況等について細かく把握し、配慮してくださっていることにも気付くことができました。また、会場校として協力いただいた学校においては、管理職及び特別支援教育コーディネーターが中心となって学校全体の体制づくりに取り組んでいただくとともに、管内特別支援教育担当者の研修の場を提供いただき、ありがとうございました。

参加者の感想（事後アンケートより抜粋）

- ・いまの自分に何ができるのかという「問題」意識を共有できたことが、何より貴重な時間となりました。
- ・本校には、中学校から ADHD などの情報は上がってきますが、個別の教育支援計画はきていません。保護者の同意が得られず高校に情報が送れないと言っていました。中高の連携がもっと密になるといいと思いました。（高等学校教諭）
- ・児童が迷ったり困ったりした時に、視覚的に確認できる手立てがたくさんあり、素晴らしかった。
- ・学習環境、指導上の注意の仕方と褒め方のタイミング、個人別のめあてや振り返りの仕方、飽きさせない工夫など大変参考になる有意義な授業参観でした。